

## 自己評価報告書

平成 23年 4月 1日現在

機関番号：12401  
 研究種目：基盤研究(C)  
 研究期間：2008～2012  
 課題番号：20520111  
 研究課題名(和文) リヒャルト・ワーグナー研究

研究課題名(英文) Studys on Richard Wagner

研究代表者 池上 純一  
 (イケガミ ジュンイチ)  
 埼玉大学・教養学部・教授  
 研究者番号：40092126

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：美学、音楽学、哲学、独文学

## 1. 研究計画の概要

ヨーロッパにおける近代芸術の改革者であるドイツの舞台音楽作曲家リヒャルト・ワーグナーの仕事、音楽と舞台の両面から理解することはもとより、19世紀ヨーロッパの政治、文化、社会、宗教的な脈絡において理解し、ひいては西欧近代(モデルネ)という現象を明らかにすることを目的とする。そうしたワーグナー研究において基本的文献である『コジマの日記』を読み解き、日本語に翻訳して刊行するとともに、ワーグナー作品のなかでも「ロマン主義」オペラと呼ばれる3作品について音楽とドラマの相互浸透を跡づける訳注/音楽注を付した対訳書を刊行することを目標とする。

## 2. 研究の進捗状況

『コジマの日記』についてはこれまでに第2巻までを刊行し、現在、第3巻の刊行を準備中である。また「ロマン主義オペラ」は第3作の《ローエンングリン》をすでに刊行し、第2作《タンホイザー》の資料収集とテキスト校訂を終え、翻訳の作業中である。

## 3. 現在までの達成度

本科学研究費の研究期間中に『コジマの日記』については第6巻(1878年分)までの刊行を予定しており、刊行のペースだけに限れば目標達成のスピードは必ずしも十分とはいえないが、その(準備作業を含めての)成果は下記の学会発表等の機会などに活かされている。「ロマン主義オペラ」については一両年内に第1作

の《さまよえるオランダ人》を以て対訳シリーズを完成させる見通しであり、おむね順調に推移しているといえよう。

## 4. 今後の研究の推進方策

主に『コジマの日記』の翻訳、刊行のペースを速めることに傾注し、目標の達成を期したい。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計4件)

- 1 「エルザの夢 —— 《ローエンングリン》の工房から」(三宅幸夫、池上純一、2010年4月11日、日本ワーグナー協会第310回例会・創立30周年記念講演会、ドイツ文化会館OAGホール)
- 2 「神々の黄昏 入門講座3」(池上純一、2010年3月19日、新国立劇場共催・日本ワーグナー協会第309回例会、新国立劇場オペラ劇場)
- 3 「《ラインの黄金》入門 —— 自然・暴力・契約」(池上純一、2009年2月21日、日本ワーグナー協会第297回例会、雙葉学園同窓会館ホール)
- 4 ラウンドテーブル「ワーグナー研究の新たな課題」(三宅幸夫・池上純一・稲田隆之・伊藤綾、2008年10月26日、日本音楽学会第59回全国大会共同シンポジウム、国立音楽大学)

〔図書〕（計 2 件）

- 1 『ローエングリン』（三宅幸夫、池上純一、  
対訳・注解・解題論文付、2010年5月、  
五柳書院）
- 2 コジマ・ワーグナー『コジマの日記 2』  
（三光長治、池上純一、池上弘子、2009  
年9月、東海大学出版会）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕